

■伊藤三七庵先生追悼■

驚きと淋しさと残念さが重なり合って

ナリス化粧品 東郷 敏

伊藤先生の訃報に接し、驚きと、淋しさと、残念さが重なり合っています。黒田先生を知られた伊藤先生も、このことを終生のよろこびとされ、誇りに感じておいでだったことと思います。善光寺は、また伊藤先生の作品の発表、展示あまねく知っていたただく場として、伊藤先生の人生そのものが、善光寺と、黒田先生に関わっていたのかもしれない。伊藤総代の善光寺への影響も計り知れないものがあつたのではと察しております。いつも仲良く、ご円満な、ご夫人の悲しみと、御嘆きが観ぜられます。やはり年・月が経ってきているんだなアーと思ったりもします。ご冥福をお祈りいたします。



# 伊藤喜三郎（三喜庵）先生のご逝去

——善光寺檀徒総代——

善光寺檀徒総代・伊藤喜三郎（三喜庵）先生は、平成八年三月三日午後五時四十五分、逝去されました。（行年八十二歳）

葬儀・告別式は四月四日（木）午後一時から、築地本願寺第二伝道会館（東京都中央区）に於いて執り行なわれました。

茲に謹んでお知らせ申し上げます。

善光寺黒田方丈と故伊藤先生のご縁は古く、善光寺開創時から深く関わって来られ、私的には倫子夫人との結婚の仲人もされました。

『成寿』誌上へは毎号表紙絵や文中カット等、独特な絵筆で飾って頂き、読者の皆様からは賛嘆の声が寄せられていました。

伊藤先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。  
なお、次号に先生の特集を予定しております。